

新技術アイデア発想方法修得による地元企業のための 技術開発人材育成・活性化プログラム

学生団体名 発明研究会 (北陸先端科学技術大学院大学)

参加学生 内海智至・松尾亮輔・牧野逸夫・伊藤謙・中川武夫・土山伸

1. 地域活動の概要

当研究会は今回の地域貢献型学生プロジェクトにおいて、大きく分けて二つの活動を行った。一点目は JAIST フェスティバルにおいて地域の方々、特に小中学生に発明に興味を持っていただけるよう発明体験として普及活動を行った。もう一点、地元企業に対しては企業の経営や生産、開発に関するニーズを伺い、それに対する解決策を研究会内で議論した後提案するという活動を行った。

2. 地域活動の具体的な内容

2012年9月29日に北陸先端科学技術大学院大学で行われた JAIST フェスティバル内において発明体験と称し地域住民の方々に折り紙体験として紙飛行機を折っていただいた。学生は研究会内の4名で、参加者は住民と学生含め100名程度参加した。その際、学生は準備と当日の運営、また同じ部屋において地域で生まれた特許の紹介や研究会員の発明紹介も行った。

もう一つ、2012年の10月～12月において株式会社シャリティーの代表である森昭平様に対し、企業が抱える問題をお伺いし、研究会内6人で話し合った解決策を提案した。具体的には、芯なしホッチキスの使用用途と特許の文言に関する事項について提案させていただいた。また、実際に北陸先端科学技術大学院大学に来ていただき、森様の発明に対する考え方と開発した商品について講演して頂いた。講演には8名の学生が参加し意見交換を行った。

3. 地域活動の評価

発明体験に関しては、小中学生を中心に発明の楽しさに気づいてもらうきっかけになったと思われる。その際大人も交じって作業することで世代間の知識の交流や、外国人と作業することで異文化間の知識の交流に役立てたと感じている。

地元企業に対しては問題解決という点で役に立ったと考えられる。

4. 今後、この地域活動を継続、活発にしていくために必要なもの、及び課題

参加企業が少なかったことは課題といえる。昨年度から継続して行っている当研究会の活動も学内外と認知度が増してきているように感じる。そのためにも人数を増やし、引継ぎをしっかりとやる必要がある。

5. 学生の感想

地元企業の問題解決を通じて、特許の考え方や、アイデア発想法の習得など自分の知見を増やせた点は良かった。もう少し、産学連携した方が良い。

6. 地域からの評価

発明体験に関しては、頭を使って考えるのが面白いといった意見をいただいた。

地元企業の方は、問題解決のためによく考えたことが伝わってきてよかった。また、講演を通じ学生の前で話ができてよかった。とおっしゃっていただけた。